

平成 27 年 6 月 25 日 (木)

丹波地区日帰研修旅行

13 期生感想文 (理事会提出用)

班名 : A 班

氏名 : 坂井、今田、名執、

### 1)丹波県民局 講義

- ・柳瀬局長の「丹波の森構想づくり」のトップの思いが強かった。
- ・丹波ブランド (黒大豆、丹波栗等) を活かした農業振興の意気を感じた。
- ・担い手育成支援、環境創造型農業等の推進に農商工連携を強くされている。
- ・若手・小多さんの取り組み姿勢が熱気に溢れ、勧誘力に圧倒された。
- ・行政と地域が一体となり、ブランド製品の開発で街おこしをされている。
- ・農林関係の現状は大変厳しい中、生き残りに賭ける姿勢が良く見えた。

### 2)春日町 有畜複合経営農家 中野 宗嗣 様

- ・有機農法に必要な牛糞を、牛 7 頭を飼い酪農業で頑張る姿に心打たれた。
- ・米、野菜、乳牛を有機農法で育て、消費者が周りに居てくれて、喜んでもらうのを生きがいにして作り・届けています。の言葉に、感謝感激です。
- ・高齢者 2 人でいつまで有畜複合経営農業が継続できるか気になります。
- ・「あいがも」が元気に泳ぎ除草作業している躍動感が老夫婦の力と思う。
- ・畑土がサクサクして扱い易く、水はけが良くジャガイモが喜び生まれた。

### 3)市島町 農事組合法人・丹波いちじまふあーむ 萩野 拓司 様

- ・森のツリーハウスは自然の森をそのまま活かした癒しの場にホットした。
- ・新たな農業に求められるものは、農産物の付加価値を高めた商品化する為生産・加工・販売の 6 次産業化を目指され、地域創生の心意気がわかる。
- ・農家間の連携を強くもたれ、都市部からの移住者に力を注がれる気持は萩野様が市会議員で、自身を含め地域の将来性を考えた行動に感心した。
- ・マリゴールト・バジル等の防虫効果、野菜同士の相性で栽培方法が解った。

### 『まとめ』の感想文 (食の安全・安心、地産地消、自給率等及び農業対策への思い)

- ・県民局皆さん方の取組みは地域密着の運命共同体で一体感を感じた。
- ・兵庫県の地域創生 (人口対策と地域の元気づくり) に繋がる推進策と思った。
- ・10 月丹波栗食べ歩きに、家族・親戚一緒に出掛けて丹波を応援したい。
- ・農家の作物作りの気持ちは、消費者の健康を気遣う心に感謝します。
- ・兵庫県の食の生産地が丹波をはじめ多くの宝の山地域があり、外国から輸入に頼るのではなく、地産地消で十分な安全・安心の食の地域であると確信した。
- ・生きるための食べる有難さを考え直し、健康に良い農産物を継続的に供給できる農家・農村を育てる気持ちで、安心料価格の地産地消に全面協力する。
- ・今回の研修旅行は大変勉強になり、今後も続けて頂き、より理解を深めたい。

平成 27 年 6 月 25 日 (木)

丹波地区日帰研修旅行

13 期生感想文 (理事会提出用)

班名 : B 班

氏名 : 安田、北地、永井、有田、内藤、

### 1)丹波県民局 講義

- ・地域資源を生かし、農産物の付加価値を高め、農商工と 6 次産業化の推進を後押しする具体的な商品化は、地域の農業振興に大いに貢献できる取り組みと共感した。

### 2)春日町 有畜複合経営農家

中野 宗嗣 様

- ・乳牛の飼育と野菜作り・米作りの循環型酪農は見事なものです。
- ・合鴨農法は、田植えと合鴨を田んぼに入れる時期の難しさ、合鴨がカラスやヌートリアに 1 晩で食べられるなど、ご苦労も多いことだが、農薬を使わずに草取りができることは、素晴らしいと思う。

### 3)市島町 農事組合法人・丹波いちじまふぁーむ

萩野 拓司 様

- ・お父さんの代からの保田先生のご指導で、市島に有機農法に取り組み、それを継承され、発展されていることは、素晴らしいことである。

### 『まとめ』の感想文 (食の安全・安心、地産地消、自給率等及び農業対策への思い)

- ・有機栽培の大切さを、大変さを改めて認識された。
- ・丹波のブランド商品づくりに専念する担い手を育てていくことが大切だとよく分かった。

平成 27 年 6 月 25 日 (木)

丹波地区日帰研修旅行

13 期生感想文 (理事会提出用)

班名 : C 班

氏名 : 平山、櫻本、高木

---

### 1)丹波県民局 講義

- ・住民と農業が密着していること、丹波の森の地域構想、丹波ブランドを生かした農業の話が興味深かった。
- ・栗の木 10 年を目安に継の若木を育てる、高齢者の作業の大変さがよく理解できた。
- ・丹波栗の由来の話は、興味深く面白かった。
- ・日本一の丹波栗の産地復活の基本構想で生産者と行政が一体となった「夢マロン」の戦略構想図は、素晴らしい。

### 2)春日町 有畜複合経営農家 中野 宗嗣 様

- ・牛が良く手入れされており、牧場もきれいなのが印象的だった。
- ・牛糞を利用できる範囲の頭数で押さえているのは良く考えられている。
- ・合鴨のひなが雑草を食べるために田圃に放し飼いされているのを初めて見たが、非常に感動した。
- ・作物が元気に育っているのを見て、こういう作物を食べたいと思った。
- ・化学肥料を使わないのは本当に手間がかかることを実感した。

### 3)市島町 農事組合法人・丹波いちじまふぁーむ 萩野 拓司 様

- ・森の中のツリーハウスでお弁当を食べ自然を満喫した。
- ・山は荒れ一方で人手が足りない、やれる事はやる信念に頭が下がる。
- ・行政の応援が素晴らしいと思い、生産者も遣り甲斐があると思った。
- ・有機農業は手間がかかり大変であるが、とてもよく手入れをされており、感心した。特に周りの草が根元に置き、土の日焼けを防ぎ、水はけや肥料など、一人でできることではないと感じた。

### 『まとめ』の感想文 (食の安全・安心、地産地消、自給率等及び農業対策への思い)

- ・有機農業の現場を久し振りに拝見しましたが、手間のかかる作物づくりをこだわりを持っておられる方がいることに感動しました。
- ・私たち消費者はこういう農業をやっておられる方から作物を買い取るという行為で支えていかなければと思った。
- ・若い後継者を育て、若者が複合経営の有機農業を引継いでくれることを望みます。そのためには、私たち消費者が協力できることは、買い取るのみではなく、農村に足を運び、生産者の農作業を手伝い、励ます事も大切です。
- ・森 (山)、川、田圃の自然を守る事が大切、有意義な研修で毎年行きたい。

平成 27 年 6 月 25 日 (木)

丹波地区日帰研修旅行を終えての 13 期生感想文

感想文提出者 A・B・C・D 班 記入者： 東條 国広

**1)丹波県民局**

講義

- イ) 丹波市の農業概要 農業改良普及センター 秋山 隆 所長  
6 次産業という言葉を知りました。米、黒豆、山の芋、栗、等の生産から加工、流通、販売まで一体化により、安定生産と品物の付加価値向上に努めていることは良い計画であり、期待します。
- ロ) 特産丹波栗の実情について 普及指導員・果樹担当 小多 善功 様  
栗は効率の悪い品種だと感じました。にもかかわらず農薬を 3 割減らしてその生産に取り組んでいること、また焼き栗、モンブラン、栗きんとん、栗ようかん等たくさん加工して販売していることに感心しました。栗がなくなるとは寂しいですから。.....

**2)春日町 有畜複合経営農家 中野 宗嗣 様**

- イ) 乳牛舎見学  
素朴なご夫婦と牧場に懐かしさを感じました。  
牛乳がとてもおいしかったです。生きがいをもって乳牛を飼っている様子が伝わってきました。かなりの重労働で年齢が心配です。跡継ぎがいてほしいですね。.....
- ロ) 合鴨農法見学  
農薬を使わない農法として良く考えられたと思います。  
ただ、合鴨が、人間が作り出した道具のように感じられてかわいそうです。米ができるころには合鴨も成長し、その役目を終えて食肉用となると聞いて一層哀れさを感じました。.....
- ハ) 有機農法圃場見学 (実習) 講義  
野菜が生き生きと瑞々しく育っていました。ズッキーニ、ハブリカ、キュウリ、メロン、ナス、トマト等々有機農法で作られていました。  
一方、無農薬のキャベツに蝶々が群がり葉っぱを食べつくしていました。.....無農薬とはこんなことかとびっくりしました。.....

**3)市島町 農事組合法人・丹波いちじまふぁーむ 萩原 拓司 様**

- イ) 昼食・里山視察

(2/2)

大樹4本の柱を利用して作られたツリーハウス、そこで食べたランチはおいしかったです。山のさわやかな空気が心地よかったです。

子供たち、孫たちに絶対に必要な環境ですね。.....

昼食の中身は寿司ではいただけなかったです。きっと忙しいんでしょうかそれとも昼食に良い特産品がなかったのか。.....

ロ) 萩野様 講義(食・食料の大切さ、農林一体の大切さ他)

萩野氏のご苦勞がよく伝わってきました。もっと県、市町村、地域住民、運営会社が一体となって地域の振興に取り組まねばならないと感じました。.....人口の減少対策、地方の活性化がいかに困難なことであるかを感じました。.....

ハ) 葡萄園見学

自然栽培の果物、野菜はうらやましい限りです。

反面、農家の方の苦勞、牛を飼っている方の重労働には頭が下がります。

.....もうすぐ丹波ワインづくりが始まるのでしょうか。.....たくさん売れるといいですね。.....今年は私も買ってたしなんでみます。.....

二) 自然栽培圃場見学(実習)

農薬を使わず草ぼうぼうかと思いましたがそれもなく、自然栽培で立派な野菜ができることを学びました。.....彼が一人でやっていること、後継者がいないことを残念に思い、将来のことが心配です。.....

『まとめ』の感想文(食の安全・安心、地産地消、価格、自給率、後継者等)

.....初めての見学でしたが、見るものすべてが新鮮で今後安心して食することができます。.....これからの子供たち、孫たちに残していきたいと思います。.....

.....人は良くないと思いつい安いものに走ってしまいます。.....

.....反省が必要です。.....

.....旅行してみて地方の空洞化を目の当たりに感じます。.....

.....農業の衰退を抑えねばいけません。.....食糧の自給率を高めねばいけません。.....

.....人口減少と農業の衰退のダブルパンチで地方が消滅する危険にさらされていることを如実に感じます。.....

.....見学の帰りに道の駅「丹波おばあちゃんの里」で買い物をしました。旬野菜が並んでいました価格は少々高めですが地場産直ですから納得です！

.....お客は平日のせいもありKGS(大学院生)我々だけの様で 駐車場、レストラン、トイレも活気が無かったです。.....レストランは素晴らしい施設です。

.....ソフトクリーム、黒豆パンもおいしいです。.....あらん限りの知恵を出し合って販売施設の発展に努力しましょう。.....

## 件名：2015年 丹波地区日帰研修旅行報告

丹波日帰研修旅行		実施日	2015年6月25日	参加者数	学長含め47名	
報告者	総務・企画 岡田・広瀬	報告日	6月29日	頁数	1 / 3	
訪問先	丹波県民局	訪問日時	9:30 ~ 10:30	訪問者	丹波市柏原町柏原 688 柳瀬局長挨拶 秋山所長、小多指導員	

### (1) 丹波県民局 柳瀬局長 御挨拶

「丹波の森（地域全体を云う）構想」緑豊かな伝統文化など地域の特性や資源を生かしながら、自然と文化と人が調和する町（地域）づくりをH3年から住民、事業者、行政が一体（住民の支持得て）となって推進している。神戸から近い、多くの方が第2の故郷として来てほしい。

### (2) 農業改良普及センター 秋山所長（保田学校卒業生） 丹波の概要と丹波市の農業概況

- 1.（・日本栗の在来品種は、大阪、兵庫、京都にまたがる丹波地方から全国に広まったと23日、農研機構・果樹研究所が発表）
2. 丹波の概要：兵庫県全体の1/10の面積、日本海と瀬戸内を結ぶ交通の要所（日本一低い分水界 水分れ 海拔95m）・銀寄の名前の由来（銀＝お金、この地の栗はお金になる）
3. 普及センターの仕事、①丹波ブランドを活かした農業振興（丹波栗、丹波黒大豆枝豆、丹波黒大豆、丹波大納言小豆、丹波山芋、薬草（トウキ））②新規就農者 次代の担い手の育成・確保 ③農産物高付加価値化の推進

### (3) 普及指導員（果樹担当）小多善功様 特産丹波栗の実情について

1. 丹波栗の歴史 「延喜式 朝廷に栗を献上する国・丹波」丹波は兵庫丹波か京都か大阪かは正確ではない。
2. 栗生産復活の目標 1979年413t（ピーク）、2006年75t、2011年127t 目標2020年200t
3. 日本一の丹波 丹波栗（丹波くりではない）の最高品種を目指す（歴史、想い、名声品質、栽培技術、ブランド力）
4. 目指す姿 丹波地域活性化の拠点と「夢ロマン」を整備する
  - ①丹波栗の情報発信、販売促進
  - ②丹波栗を使った地産地消事業展開
  - ③農・商・工と観（観光）の連帯（地域内に栗を買いに来てもらいたい）





報告者	総務・企画 岡田・広瀬	報告日	6月29日	頁数	2 / 3
訪問先	春日町	訪問日時	11:00 ～12:20	訪問者	・中野 宗嗣 様 (有畜複合経営農家)

\* 乳牛舎ならびに有機農業圃場視察と講義

(1) 生産形態・規模・内容

1. 小さな酪農家 牛7頭 LTLT牛乳200k/日 牛乳生産25年

(低温殺菌牛乳は、62～65度で30分殺菌することのメリットは栄養素、加熱によるタンパク質の変性が少なく、栄養吸収の効率が良い。また高温殺菌でのこげ臭を感じることはない、そのままの牛乳の味が楽しめる) 格別な味は小山ロール、夢の里やながわをはじめ、材料にこだわりを持つ洋菓子店に選ばれている。

2. アイガモ稲作 水田1.7ha 合鴨40～50羽/ha



3. 有機野菜(50種) ジャガ芋、ナス、黒豆、西瓜、マン他 0.8ha

1. 農作業手伝い(じゃが芋・きたあかりの収穫作業) 収穫 30k 1畝



(2) 中野様の農業哲学は人を引き付ける

1. 中野様の手記、新聞掲載文書より要約

\* 農業の細やかさ(日本の伝統的な農業の、風土に根差した形)

\* あるべき姿の農業と自負している。\* 地球から見たら、自分の農地は針の先の一点かもしれないが、そこを輝かせたい。

牛の糞は一日に15回も排泄され量も多く、その処理は酪農家の課題であり、多くの牛を飼育するほどその課題は大きくなっていく、酪農の規模は小さくとも、それを堆肥として利用し、循環させるそのことがきめ細やかな酪農、そして農薬や除草剤を一切使わない農作物づくりへと繋がっている。

\* 消費者のつながりを大切に、「自分が作ったものを喜んで食べてくれる、それがうれしい。野菜の発送も10種類くらいは詰め合わせるようにして、家で取れる季節の果物を入れてみたりして見た目にも楽しんでもらえる工夫している」

2. 人生観・哲学に裏打ちされたお話は皆を引付け、聞き入りました、時間がなく残念。いただいた愛、「農地を輝かせたい」の中に、朝牛舎に行く前にご夫婦二人で聖書を一章ずつ読み、祈る。四年近くで全巻精読でき、うれしかった。今二度目に入りこれを生涯続けたいと結ばれていました。

報告者	総務・企画 岡田・広瀬	報告日	6月29日	頁数	3 / 3
訪問先	市島町	訪問日時	12:50 ~ 15:20	訪問者	荻野 拓司 様 岸下様 農業組合法人 いちじまふあーむ

(1) 昼食 天気よし、戸外での、ログハウスでの「一富士」の巻寿司、味・ボリュームとも満足。葡萄ハウスでピオーネの美しい姿を見ました。

丹波の自然が持つ、農・林の多様な可能性とそれへの積極的な取組み聞かせて貰いました。

(2) 新たな「農」活動の展開を求め のお話し

1. 有機農業発祥の地「市島」1970年代
2. 米穀に偏重した農政の歪み
3. 地産地消、産直（消費者とのつながり）ネット販売など多様な「農」活動の展開

(3) 新たに農業に求められるもの（丹波いちじまふあーむの取り組み）

1. 農業の付加価値対策 6次産業化
2. 「丹波ブランド」をいかに活かすか
3. 里山の資源の活用
4. 生産者の連携（自然栽培生産者とのつながり）



(4) 自然栽培農園見学

岸下様 （尼崎から5年前に移住されてこられた方）

1. 事前栽培：肥料は米糠、微生物（半年に1回散布）、畑の刈草
2. 圃場 1畝
3. 茄子・胡瓜・ニラ→トマト・バジル→ピーマン・マリーゴールド→トモロコシ・枝豆  
（コンパニオンプランツによる混植を採用、また害虫対策にニラ・ハーブが植えられていた）
4. 水は植え付け時以外はやらない、自然任せ
5. 茄子、胡瓜、トマト共に葉、茎に勢いがあり元気そう



(5) 保田先生のお力と皆さんの協力で支えられ、天候も応援してくれた有意義で楽しい研修旅行でした。ありがとうございました。（総務・企画より）